

飢餓のない世界を目指して

食糧支援 ニュースレター



World Food Programme

wfp.org/jp

MAY 2013 | Vol.40

- 安藤会長、フィリピンの台風被災地を訪問
- シリア緊急支援 拡大するも困難に直面
- 池上彰さん、伊丹十三賞の賞金100万円を国連WFPに寄付
- 第5回アフリカ開発会議(TICAD V)に向けて
- 私たちの国連WFP支援 株式会社カネカ
- [RED CUP CAMPAIGN]レポート
- WFPエイセコンテスト2013 作品募集



東ダバオバオカパン郡。23万を超える家屋が全壊または半壊。道路等のインフラの多くが破壊されました。

© WFP/Peter Caton



訪問した小学校。

©JAWFP



給食の配膳を待つ子どもたち。

©JAWFP



鉄骨だけになった小学校の体育館。

©JAWFP



カティール郡の食糧配布所で被災者に様子を見守る会長。

©JAWFP



カティール郡の食糧配布所で支援米を手渡す安藤会長。

©JAWFP



支援米の引き渡し式にて。

©WFP/Philip Herzog



バナナ農園で雑草の除去等を行う人びと。

©JAWFP

安藤会長、フィリピンの台風被災地を訪問

昨年12月4日に巨大台風に襲われ甚大な被害を受けたフィリピン・ミンダナオ島東部を、4月初旬、安藤宏国連WFP協会会長が訪問しました。この台風では約620万人が被災、死者は1,146人、行方不明者は834人にのぼりました(2013年2月12日時点)。国連WFPはフィリピン政府の要請を受けて緊急支援を開始し、被災地の40万人を対象に食糧・栄養強化支援や輸送支援を行うことと決定し、活動を継続しています。

最初に訪れたのは、コンポステラ・バレー州モンテピスタ郡にある小学校です。国連WFPはフィリピン教育省およびUNICEF(国連児童基金)との連携のもと、1月下旬以降、深刻な被害を受けた4つの州の260校7万9,000人の児童に緊急支援の一環として給食支援を行っています。この支援により、子どもたちは被災後の困難な時期であっても学校に通い栄養価の高い食事をとり勉強することができます。訪問した小学校では、国連WFPが提供した米、豆、植物油、そして親たちが提供した野菜で作られた給食が配給されていました。安藤会長は「台風被害の爪痕は深く、訪問して改めてこの地に住む方々の大変さを感じるが、そのような状況の中でも子どもたちが嬉しそうに給食を食べる姿を見ることができて安心した。」と語りました。

次に訪れたのは、同州コンポステラ郡のバナナ

農園です。バナナは同州における主要農産物で、同郡では農家の70%がバナナ作りに従事していましたが、この度の台風で大きな被害を受けました。そこで国連WFPはバナナ農園の復興を推進すると共に被災者を支援するため、農園の修復・整備に携わった人びとに1日あたり226ペソ(約500円)の現金を支給しています。被災後は多くのバナナの木がなぎ倒れてしまったとのことでしたが、視察した農園では収穫まで残り約3か月までに育ったバナナの木々が並んでいました。

この度の活動には日本政府からの支援も活かされています。日本政府は昨年12月、国連WFPの要請に応じて200万米ドル(約1億7,200万円)を拠出しており、国連WFPはこの資金で支援用の米を購入し被災者に提供しています。コンポステラ・バレー州の州営農場では、農場の修復に

参加した住民に労働の対価として同支援米が配布されており、農場訪問時に開催された米の引き渡し式には、作業に参加した住民、伊原浩一在フィリピン日本大使館・駐ダバオ出張駐在官事務所所長、ウィ・コンボステラ・バレー州知事、国連WFP職員、安藤会長らが参加しました。またこの視察では、深刻な被害を受けた地域の一つである東ダバオカティール郡の食糧配給現場も訪問しました。東ダバオ州では国連WFPが提供する米にフィリピン政府からの物資を加えた配給が行われており、同郡では昨年12月の支援開始以来、約12,300世帯が支給を受けました。安藤会長は「想像を超える被害の大きさに衝撃を受けた。東日本大震災の際はフィリピンより支援が寄せられたが今回はぜひフィリピンの人びとの支えになりたい。」と述べました。

国連 WFP では皆様からの継続した支援を必要としています！



続いて訪れたのは、国連WFPそして国および州政府らの連携のもと進められた稲作支援の現場です。この支援は、被災者の復興に対する強い意志を反映し実現された取り組みです。国連WFPは、田植え前の水田の整備に参加した人には食糧を、田植えに参加した人には現金を、労働

の対価として提供しており、5,100ヘクタール分の稲を収めることができました。水田を見た安藤会長は「被害に遭われてからまだ4カ月しか経っていないのに住民の方々が協力してここまで達成されていており、その努力、忍耐力は賞賛に値する。」と話しました。

また、今回国連WFPは6～59カ月の乳幼児を対象とした栄養支援にも力を入れており、災害時に大きく被害を受ける子どもたちが栄養不良に陥るのを防いでいます。視察を終えて安藤会長は「かけがえのない人や身の回りの大切なものを持った方々の心の傷はなかなか癒されるものではないが、皆さんは日本から来た私たちを喜んで歓迎してくださった。そして、多くの方が早く元の生活に戻れるよう頑張っていくと伝えてください。今回国連WFPの活動成果を見て、支援は確実に役立っていると再認識できた。これからも現地の状況を皆さんに伝え、支援につなげていきたい。」と述べています。



支援の現場から ～現地で活躍する日本人職員～



この度の支援には、国連WFP フリビリン・ミンダナオ地区事務所プログラムマネージャーの堀江正伸さんが活動に携わっています。堀江さんに尋ねました。

Q1: 台風直後はどのような様子でしたか？

台風が当地へ襲来したのは100年ぶりとのこと、人びとは何をしていいかわからないような状態でも、まさに敗戦状態という感じでした。また2～3日経つと台風で倒れたり折れたりした草木が枯れ始め、通常は緑が生い茂るミンダナオが一面茶色というイメージでした。

Q2: 今回の支援で印象に残っていることはありますか？

この度の被災地は、普段であれば国連WFPの支援が必要となる場所ではなく、当地の方々にとって国連WFPは馴染みの薄いついひとなし。しかし、現在では最も彼らに近い機関のひとつとして認識されるようになりました。国連WFPの支援そのものや支援を行う職員が、食糧支援という側面だけではなく、被災者の方々に精神でも支え勇気付けたのではと感じています。

Q3: 国連WFPで働いていてやりがいを感じるのどのようなところでしょうか？

真っ先に、最前線まで行って、支援を必要とされているものと触れ合いながら仕事ができること、また、支援活動を自身の目で確認しながら支援ができるというところに魅力を感じます。さらに、支援の結果、皆さんが普通の生活に戻れたことを確認できたときに非常にやりがいを感じます。

Q4: 最後に日本の皆さんにメッセージをお願いします。

普段皆さんが召し上がっているものの中には、実はフィリピンを含め国連WFPが活動する国で作られているものも多くあります。そういう意味では、途上国はそんなに遠い存在ではありません。ですから、そのような地域で災害や紛争が起きた際は、決して日本から遠いところだと思っていることではないと考えご支援いただけたら嬉しいです。

※国連WFP協会は台風直後に被災者支援のため緊急支援募金を実施し、同年12月に4,000万円をフィリピン支援用として国連WFPローマ本部に送金しています。

シリア緊急支援 拡大するも困難に直面

シリア危機が発生してから、今年の3月で2年が経過しました。しかし戦闘は終わる気配がなく、今までに子ども数千人を含む7万人以上が命を奪われました。500万人以上のシリア人が家を追われ、そのうち130万人以上はヨルダン、レバノン等外国で難民生活を強いられています。

国連WFPはシリア危機への対応として緊急支援活動を2011年8月から続けています。シリア国内では、米、挽き割り小麦、レンズ豆、砂糖、植物油、塩などの食糧を配布しており、3月には200万人に食糧を届けました。また、特に弱い立場にある子どもの栄養状態を改善するため、3歳までの乳幼児を対象に、ベストクラスの特別な栄養食品の配布も始めました。さらに活動を拡大中ですが、激しい戦闘の中、食糧を届けることが難しくなっています。国連WFPの食糧倉庫やトラックが集中砲撃に巻き込まれることが増えており、緊急に支援が必要な地域でも届けられないという事態が起きています。特に、戦闘地域や反



政府勢力掌握地域では状況は深刻で、何百万人もの人びとが食糧不足に陥っていると想定されます。そのため、支援が必要な場所に安全に人道支援物資を届けられるよう、全ての関係者に協力を要請しています。イラク、ヨルダン、レバノン、トルコ、エジプトといった周辺国では主に食糧引換券を用いて約80万人のシリア難民に食糧支援を行っており、年末までに120万人に支援を拡大の予定です。

3月末からは、ヨルダンとイラクの難民キャンプに在るシリア難民の子ども1万人以上に対し、学校給食として軽食の提供を開始しました。給食の提供で、子どもたちの栄養状態を改善し、登校を促します。配布している軽食は、栄養強化されたつめやしパーやビスケットで、11種類のビタミン、3種類のミネラルを含み、一袋で450カロリーを摂取できます。給食提供は始まったばかりですが、学校への出席率は既に20%増加しました。国連WFPは、このような給食事業を広げていく予定です。

しかし戦闘が続く中、必要な支援も増大し続けており、国連WFPの活動は資金不足により困難に直面しています。支援活動を計画通り行うためには毎週およそ19億円が必要で、資金調達では緊急の課題となっています。資金不足が続けば、今後、食糧提供が受けられる人の数や、配給する食糧の量を削減しなければならなくなる可能性があります。どうぞ皆様のご支援をよろしくお願います。

池上彰さん、伊丹十三賞の賞金100万円を国連WFPに寄付



映像や言語表現などの分野で優秀な実績をあげた人に贈られる「伊丹十三賞」（主催：公益財団法人ITM伊丹記念財団）の第5回受賞者に、ジャーナリストで東京工業大学教授の池上彰さんが選ばれました。2012年にテレビ東京で生放送された「池上彰の総選挙ライブ」が高く評価されたことが受賞の理由です。

4月18日に東京で行われた贈呈式で賞状と副賞の100万円を授与された池上さんは、賞金の全額を国連WFPに寄付すると発表しました。

池上さんは今までに二回、国連WFPの活動現場に足を運び、取材してくださっています。

2011年には、深刻な食糧危機が発生した「アフリカ」の角の取材のため、アフリカ東部のジブチを訪ねた。内戦や干ばつから逃れてきたソマリア人が暮らす難民キャンプで、到着したばかりの難民への食糧配給や、乳幼児・妊婦などの栄養改善プログラムなど、国連WFPの様々な活動を視察しました。

2012年には、シリア難民が押し寄せるヨルダンの難民キャンプを取材。戦闘や冬の寒さで疲弊したシリア難民の姿や、緊急支援における各国連機関の役割分担、国連WFPによるパンの緊急配給の様子などを報告しました。ジブチ・ヨルダン取材には両回ともテレビ東京の取材チームが同行し、その様子は、同局の報道特番などとして放送されました。

国連WFPに賞金を寄付したことについて池上

さんは、「アフリカや中東の難民キャンプにも、いつも国連WFPスタッフの姿がありました。私どもの取材でも、国連WFPに協力をいただきました。限られた資源（人的資源、食料資源、資金資源）を有効に使いながら奮闘する人たちの姿を見て、どんな協力ができると考えてきました。国連WFPにはテレビ東京の取材でお世話になったことを考えると、テレビ東京の番組で受賞した賞金を寄付するのが一番ではないか。そう考えたのです。国連WFPの援助を必要とする人が世界からいなくなる日を夢見て、今後も微力ながら協力します」と語っています。

世界の人道問題に絶えずアンテナを張り、弱い立場の人たちの声なき声を伝えてくださる池上さんは、国連WFPにとって大変心強いサポーターです。その温かいご支援に感謝申し上げますとともに、さらなるご活躍をお祈り申し上げます。

第5回アフリカ開発会議（TICAD V）に向けて

6月1日から3日まで、横浜にて第5回アフリカ開発会議（略称TICAD V）が開催されます。アフリカ開発会議はアフリカの開発をテーマとする国際会議で、1993年の以降、日本が主導し、国連や世界銀行等と共同で開催しています。

今年は第10回目のTICADが開催されてから20年の節目の年で、「躍動のアフリカと手を携えて一貫の高い成長を目指して」という全体テーマの下、日本やアフリカ諸国、国際機関、支援国、民間部門、市民社会の代表が議論を行い、今後のアフリカにおける開発政策をまとめます。

今年の議論の柱は、「強固で持続可能な経済」「包摂的で強靱な社会」「平和と安定」の3つ。どれも、アフリカの全ての人々が十分な食糧と栄養が得られるようになってこそ実現できる目標です。国連WFPは食糧および栄養の安全保障の実現に向けて、関係者の理解と協力を積極的に働きかけていきます。

横浜市のアフリカ応援キャンペーン「ヨコハマ for アフリカ」

横浜市ではTICAD V開催に向けて、多くの人がアフリカをより身近に感じ、日常生活で直接アフリカに貢献できる仕組みとして、アフリカを応援するキャンペーン「ヨコハマ for アフリカ」を展開しています。その一つである「レッドカップ for アフリカ」キャンペーンでは、4月1日から5月31日の間、賛同する市内の店舗、飲食店等が、アフリカに関する特別メニューを提供して、売り上げの一部を寄付したり、店舗に募金箱を置く等を実施して、国連WFPのアフリカでの給食支援を応援します。キャンペーンの目印は、国連WFPの赤いカップのマークです。イオングループ、崎陽軒、高島屋 横浜店、ファミリーマート等、多数の企業・団体が参加しています。その他の参加企業・団体については、本キャンペーンのサイト (<http://www.ticad.yokohama.jp/reducup/>) をご確認ください。また国連WFPも、子どもの飢餓をなくすためのチャリティーウォーク「WFPウォーク・ザ・ワールド」を、今年は「WFPウォーク・ザ・ワールド for アフリカ」として、アフリカの子どもを応援するために実施しました。

国連WFPとアフリカ「食糧で守る未来」～竹下景子親善大使が見たセネガルの生きる源～

5月13日から6月4日の間、横浜タカシマヤで、国連WFP協会の竹下景子親善大使がセネガルの活動現場を訪ねた際の写真を通じて、同国の現状、国連WFPの活動を紹介しました。期間中はアフリカでの学校給食のためのチャリティーアクションも開催します。



私たちの国連WFP支援 株式会社カネカ

樹脂、合成繊維等の化学メーカーである株式会社カネカは、国連WFPの飢餓と貧困を撲滅するという使命に賛同しその活動を支援するため、国連WFP協会が日本の民間企業の皆様との協働で展開する「国連WFPコーポレートプログラム」に初の「パートナー」として参加しています。同社は、2013年から2015年の3年間、毎年年間500万円、総計1,500万円を国連WFPに寄付し、学校給食プログラムを支援します。これは、同社が合成繊維「カネカロン」で作られたファッションウィッグ（頭髪装飾品）のアフリカでの販売を通じてアフリカの女性の美の追求を支援すると共に、「アフリカの女性の美の追求は個人の美の追求だけでなく、家族の幸せから生まれる」という考えのもと、現在の母親、未

来の母親、そして子どもたちを支援することを目指し、アフリカで購入された同商品の売上の一部を国連WFPに寄付するという取り組みです。ご担当のCSR委員会事務局長 堀内 泰治さんは、「毎日の食事も思うように摂れない人たちがいる一方、高カロリーを摂っているために生活習慣病になっている人がいたり、賞味期限を過ぎたからという理由で大量に食品を廃棄したりすることを考えると、アフリカの子どもたちにせめて学校給食ぐらい食べさせてあげたいと思います。そのような、やむに已まれない心情で国連WFPの活動を支援しようと考えました。弊社の合成繊維がアフリカの女性に長年にわたってご愛用いただいていることも、支援の大きな理由です。」と話しています。

※「国連WFPコーポレートプログラム」に関するお問い合わせは、国連WFP協会-事業部まで。



社内イントラネットでも本活動を紹介します。国連WFPを応援している。

国連WFPでは「皆さんの力で、給食が届く、世界がより良くなっていく。」を願いとして、「RED CUP CAMPAIGN」を展開しています。様々な企業が売り上げの一部をご寄付いただく取り組みを展開していますが、今年3月以降、新たにキャンペーンに参加いただいた企業をご紹介します。現在進行中、並びに過去の事例はレッドカップキャンペーンのサイト (www.redcup.jp) をご覧ください。

ハウス食品株式会社

「どんがりコーン」シリーズ37g袋入りタイプ(2013年4月から該当パッケージに順次切り替え、コンビニエンスストア・駅売店限定販売)



©ハウス食品

マルイ食品株式会社

「チキン南蛮」シリーズ(2013年4月1日から2014年3月31日まで、全国の生活協同組合で販売)、「ササミフライ(チーズ入り)」シリーズ、「チキンナゲット(卵・牛乳不使用)F強化」(同期間、学校給食向けに販売)



©マルイ食品

キユーピー株式会社

ベビーフード「かむむ赤ちゃん」シリーズ(2012年から継続)、「ハッピーレゼビ」シリーズ(2013年3月新発売)



©キユーピー

日清食品株式会社

日清チキンラーメン、日清チキンラーメン5食パック、日清チキンラーメンどんぶり(2012年から継続)



©日清食品

株式会社グラム/Q-pot.

Q-pot. ランドセル(2013年4月24日より、Q-pot. オンラインショップにて先行予約受付スタート)18日より(予定、一部百貨店等で順次発売)



©Q-pot.

株式会社セブン&アイ・ホールディングス

プライベートブランド商品「セブンプレミアム」のお菓子5品、「セブンゴールド」のカップ麺3品(2013年5月13日より順次、6月9日まで販売)



©セブン&アイ・ホールディングス

WFPエッセイコンテスト2013 作品募集

国連WFPでは、7月1日より、「給食(お弁当)の思い出」をテーマにエッセイを募集します。国連WFPは、過去およそ50年間にわたり、学校給食支援を通じて子どもの発育を助け、教育の機会を広げています。私たちの暮らす日本では、明治時代に山形県で貧困児童救済のために提供されたのが給食の始まりとされており、第二次世界大戦後に、脱脂粉乳等海外からの支援を受けて普及しました。現代の日本の子どもも給食で支えられているように、世界の子どもも給食の力を必要としています。国境と世代を超えて誰もがもつ身近で多様な経験を振り返ることで、給食やお弁当の持つ様々な意味と可能性が改めて見えてくるはずです。また同時に「飢餓」の問題にも関心を持っていただければ幸いです。応募1作品につき、給食約1日分(30円)が、協賛企業のご協力により寄付され、給食支援に役立てられます。是非ご応募ください。



© Mayumi R.

【実施概要】

テーマ	「給食(お弁当)の思い出」
募集期間	2013年7月1日～9月10日[締切日必着]
部門	1) 小学生部門(4, 5, 6年生) 2) 中学・高校生部門 3) 18歳以上部門
応募方法	郵送およびオンラインで受付。字数は400字～800字まで。
発表	10月16日に専用ウェブサイトで発表。
お問い合わせ先	WFPエッセイコンテスト事務局 Tel. 03-3980-9030 10:00～12:00/13:00～18:00(土・日・祝日を除く)

※ 更新の詳細は、6月10日にオープンする専用ウェブサイトをご確認ください。
WFP ホームページ www.wfp.org/jp よりアクセスいただけます。

国連 WFP では皆様からの継続した支援を必要としています！

【WFP マンスリー募金にご協力ください】

毎月1,000円からの定額引落しによる継続的なご寄付の方法です。自然災害や紛争発生時の緊急食糧支援、ならびに貧困に苦しむ子どもたちが飢えることなく健全に成長するための継続的な支えとなります。

例えば、毎月 **3,000円** のご寄付を1年間で (1日あたり約100円)

栄養不良の子ども3人に栄養強化食品を1カ月提供できます。



寄付方法

- クレジットカードで
- 銀行またはゆうちょ銀行から
- 楽天銀行から

お申込み、
お問い合わせは
こちらから ▶▶▶

☎ **0120-496-819**
電話で 受付時間9:00～18:00(年末年始を除く毎日) ※携帯電話・PHSからもつながります

インターネットで www.wfp.org/jp

※国連WFPへのご寄付は、寄付金控除など税制上の優遇措置を受けられます。

【寄付サイトリニューアルのお知らせ】

クレジットカードによるオンライン寄付サイトが、5月にリニューアルいたします。スマートフォン、タブレット端末にも対応し、より多くの皆様に幅広くご利用いただけるようになります。ご寄付の際、マイページ登録をいただくと、寄付履歴の閲覧や寄付金額の変更などがオンラインで行えます。

※携帯電話専用のモバイルサイトは終了となります。

